

歯学会に思う事

岩手医科大学歯学会会長

坂 卷 公 男

月日は百代の過客にして…

実に速いものです。歯学会長に就任してアツと言う間の10年余。当時は幹事、今は理事と名称こそ変わりましたが、まさしくこの役職者を中心に評議員の多くの先生方にもそして会員の皆様方にも助けられ、ここまでやってくることが出来ました。

副会長の下に総務、会計、集会そして編集とその各分担の活動は犠牲的努力によってこそなし得たものと心から感謝致します。

私ども学内勤務者にとってまず考えるべき事は大学あっての一員なのです。各教育職員は多くの学会等に属し、日常の研究成果の発表などそれぞれの方面でご活躍されていらっしゃいます。学会等において、役職者として大いに各方面でこれまた素晴らしいご努力をされ歯科医学にとっての功績を日一日と前進させていらっしゃるのも心から嬉しく感じております。

ですから今こそ岩手医科大学歯学部の歯学会のあり方を考えてみたいものです。

例えば研究システムにしても講座ごとでの研究設備ではこれからの時代にそぐわないという観点で先進歯科医療研究センターを5年程前に設立し色々な分野の最先端に行く研究にむけ発進したのです。

もちろん設備だけの問題ではありません。多くの利点を含んでの発進だった筈です。当然共通課題に入らない例もあるでしょう。この啓蒙的共同目的は歯学会に対しても同じことが言えるのではないのでしょうか。講座等間の色々な状況をお互いに知り大学としての教育にも活用出来るよう常日頃の努力の一助ともなり得ると思われます。

集会での演題の不足は各大学でも大変苦労しているようです。それでも発表しやすいようあるいは講座等の紹介の意味を含めて学会等で既発表でも内容の検討、変更等により発表可としたのですから少し集会に対して積極的になれないものでしょうか。協力ではなく、義務としてです。繰り返しますが所属している大学内の学会だからなのです。為せばなる為さねばならぬ何事も…の格言(?)のように今後は是非非常に参加という意気込みで再出発を期待致します。

次に論文等の投稿です。一般に投稿にあたっては、当然ながらいわゆるインパクト係数の高いと言われる雑誌への投稿を心がけるものです。原著の内容を十分考慮しての結果の話ですが。更に教員の採用にあたっては外国雑誌投稿論文数、日本国内雑誌でも専門誌論文数など評価の上でもなかなか学内雑誌までは及びません。

歯学会誌の投稿が一番多くなるのは12月です。しかも投稿締切間際からやや過ぎてからです。大学院生の論文審査最終締切が1月であり、これに間に合わないと3月の卒業式にめでたしとはならないというため致し方ない事ですが、こんな便宜的な雑誌にしまってよいのでしょうか。決して投稿してはならないものだと言っているのではありません。せっかく投稿してくれる大学院生の論文の価値を高めるためにも普段からよりよい雑誌になるようお

互いに頑張ろうではありませんか。一生懸命正月を返上するくらい査読に熱中して完成まで持ってってくれるレフリーの先生のお気持ちをもう一度考えてみてはいかがなものでしょうか？編集長の努力に対してもです。

その上これからは大学に対する外部評価が一層厳しくなります。教育面への評価、研究面への評価そして臨床講座へは診療面への評価と総合的教育職員評価が求められます。求められるから行うのではなくいつ外部評価を受けてもしっかりと体制が出来てその上で大学活動運営が行われていることが必須なのです。先ほど述べた先進歯科医療研究センターなどでの研究は、とかく臨床講座教員にとっては外来診療時間による研究時間不足解消にも効果があります。よりよい研究を共同の場で共同の費用で行えるのですから。ただ研究評価が求める論文に歯学会誌への投稿評価をどう決めるかです。当然ですが、専門機関誌への投稿に比べてどう考えるかが問題になります。これまでの基準による評価誌と日常の評価誌との差がこれからは出て来るでしょう。せっかく論文を投稿しても歯学会誌ではとなくなってしまっただけで、ただ衰退してしまうだけです。ただし外部評価者はこんな考えは甘いとするのかも知れません。このギャップの大きさは今後に残された大きな問題となることは確かです。しかもその歯学会誌には結構多くの大学院生の論文が掲載されるのです。

次に同じく多くの開業していらっしゃる先生方にも、是非日常の診療を通して経験されることのご投稿をお願い致します。これからの歯科医療に従事すべく日夜励んでいる後輩の学生諸君にとって、今ある問題点など実社会の問題点、改善点などのご投稿等頂ければ、大きな生きた教材としても活用させて頂けるからです。

大堀理事長のおっしゃる「外部からの光を」はまさにこういった些事から始まるのではないのでしょうか。毎年幸いにして大堀理事長の歯学部への多大なご理解の下、歯学会にも280万円の高額なご支援を頂いております。そのご厚意に対しても先生方の光りをお寄せ頂きたくお願い致します。

大学のあり方、制度が大きく変わろうとしている時、今なら間に合うこと、それは卒業生、在校生、教職員全学一丸となって大学変革に立ち向かって進むことです。その中で大きな容積を占める歯学会にとっては会員一人一人の力を今結集する時であると思います。

喧々囂々と入り組んだ話し合いでなく言い換えれば侃々諤々とした話し合いがこれから一層必要になるでしょう。

永い間、ご支援を賜りご指導頂きました事に心からお礼申し上げこの歯学会が名だたるものとして発展されます事を衷心よりお祈り申し上げます。

